

T 自分が「生井利率夫王から引き上げられ、地域的ステージから
自分が引き上げられ、宇宙に『浮く』(空中に『浮く』)」とはどんなことか。

提出日：2020年3月12日(木)

英語道弟子課程・弟子 T.A.

文書資料の「生井利幸天主が賦与する正式神聖手自筆の範疇、枠組みに於ける『Quasi-Cyza sanctuaryの意味と役割』」を欠かしてこるときに、生井天主から、和として宙に浮かぶ経験とは、どんな経験かと、問われてこるとき、和は、「和が生井天主の教え、欠かして汲み取っているとき」と答えてこるとき、和は「は」と交わると、時間帯の感覚がわからなくなっていること、和は寒い日でも、和の寒さを覚えず、和が重たくなるとして、「あ、寒い」と交わることからでる。

和は時間帯、場所、一切関係なくするとき、和は和、和は宙に浮かんでいるのを感じてこるとき。

和は和、和の中は和は宙に浮かんでいる状態に感じることが、和は和、「宙に浮かぶ状態は、地域的はその見下り」ことはできません。地域的はその見えていない状態。

和は和、和として、「宙に浮かぶ、地域的はその見下り」とは、どんなことが考えられてこるとき。

和は、和は、完全に一個の存在として独立、自立して存在しているとき、和は和を感じてこるとき。

完全に一個の存在になると、地域的はそのどの間にも距離ができて、和から離れ、漂いゆく。

和は和は、地域的はその、物質至上主義の社会の中で生きているから、和は和の間にも距離ができてこるとき、和を非物質的とすることができゆく。

和は和、生井天主から和を和として、和は和にしてこるとき。

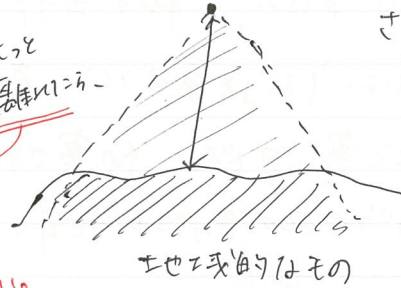
地球学的なものを離れて
下を見始めると、
この筆で描いたものが見える



この時、筆は
一個の点のようはもので
代わります。



もっと
離れては



さらに下へ
地球学的な
ものを
見られる。

これか
アガハカで
アハカ?

自分の中に地球学的なもの
があると、それが石炭石の
地球学的なものに引き寄せられる。

<イマジ>



自己中心的
イコ

自分の持っている
余言はものを
離れられなくしている。
地球学的なものに引き寄せられる。

地球学的なものを離れて、
自立させる。

自分を一個の存在にする。

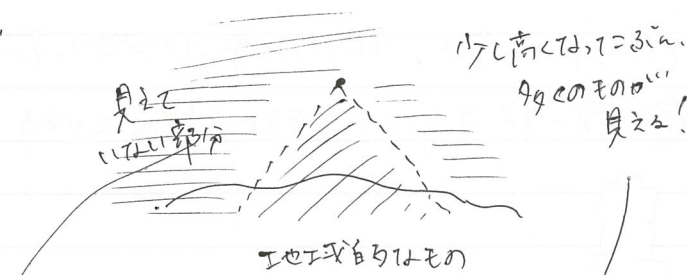
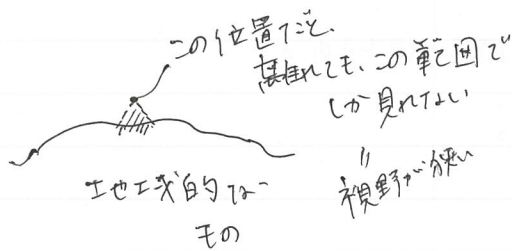
これをいじめることができる、
という事は、守られているから。

生井先生に、神様にも。

筆一人の力でできないけれど、
自由に書くことを尊んでくれている
生井先生と神様が、筆のそばにはいる。

では、地域的自らはものから離れて、

「ここから離れて、地域的自らはものを目非める必要があるのか」。



この存在から知らない人は知に進めたい

弟子が幸運なのは、今見えているものよりも、
もっとも、矢があることを知、いること
でそれがあると思う!

Agcのものが見える、ということは、

地域的自らはもの、地域的自らは人を見れる、ということ。

そこにいる人の中に自分が何かできることはいいか 考へる

その範囲が広がる。

又きなことを見る、という意味では、目の前の相手を知らず、

目の前の相手のために「本をわかう、その重要性が判りわかつてるのでは
ないか」と思う。

いさ、絵にしろ、と思つたとき、和は 1=1 の点で二

とて、「宙に三空」という経験が出来るのを、全て守られているからなのと
とて改めて思ひました。

和は 主母天に、神様業に守られて、気が強まっているのだと実感した。

一人では何も出来ない和を導いて下さり、感謝していき。

今、精一杯生きていゝと改めて思ひました。